

授業概要

本演習では、発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職に必要な知識や研究に対する姿勢を身につける。春期は、発達心理学の概論と研究法を学び、自分の興味・関心があるテーマについて研究動向をまとめる。発表と議論を通して問題意識を明確にする。秋期は予備調査を実施し、分析や結果の考察を通して今後の課題を明らかにする。ゼミ内で卒論構想発表会を行い、次年度の卒業論文に向けた研究計画書を作成する。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	発達心理学の文献講読①	第 17 回	研究計画書の作成
第 3 回	発達心理学の文献講読②	第 18 回	予備調査の実施と分析①
第 4 回	発達心理学の文献講読③	第 19 回	予備調査の実施と分析②
第 5 回	発達心理学の研究法①質問紙法	第 20 回	予備調査の実施と分析③
第 6 回	発達心理学の研究法②面接法	第 21 回	予備調査の結果と考察①
第 7 回	発達心理学の研究法③観察法	第 22 回	予備調査の結果と考察②
第 8 回	各自、興味・関心のあるテーマを絞る	第 23 回	予備調査の結果と考察③
第 9 回	先行研究の検索	第 24 回	予備調査のまとめと今後の課題①
第 10 回	研究動向をまとめる	第 25 回	予備調査のまとめと今後の課題②
第 11 回	発表と議論①	第 26 回	卒論構想発表会①
第 12 回	発表と議論②	第 27 回	卒論構想発表会②
第 13 回	発表と議論③	第 28 回	卒論構想発表会③
第 14 回	問題意識を明確にする	第 29 回	研究計画書の修正
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職に必要な知識や研究に対する姿勢を身につける。
- ・自分の興味・関心のあるテーマについて研究動向をまとめ、問題意識を明確にすることができる。
- ・研究計画を立て、予備調査を実施することができる。

履修上の注意

- ・遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- ・授業やディスカッションには積極的な態度で参加することが望まれる。

予習・復習

- ・文献講読、発表の準備、予備調査の実施などのために、授業時間以外でも予習・復習の時間が必要である。

評価方法

- ・授業への参加態度（40%）、発表（40%）、レポートなどの提出物（20%）で評価する。

テキスト

- ・適宜資料を配布する。

授業概要

「小学校国語科教育」をテーマに、国語の授業を実践的・理論的に学んでいく。具体的には「聞く・話す」「書く」「読む」という具体的な言語活動の追試を行い、どのような授業ができるかを試行する。さらに、複数の文献をもとに言語活動の現実を探りながら、先行研究から何が学べるかを思考する。最終的には、理論と実践をつなぐ研究姿勢を身に付けることをめざす。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 国語「概説」	第 16 回	発展 1 言葉遊び
第 2 回	ことばの力 1 話す力・聞く力	第 17 回	発展 2 日本語の特色
第 3 回	ことばの力 2 書く力 1	第 18 回	発展 3 メディア・リテラシー
第 4 回	ことばの力 3 書く力 2	第 19 回	研究テーマの検討 1
第 5 回	ことばの力 4 読む力	第 20 回	研究テーマの検討 2
第 6 回	文章のいろいろ 1 説明的文章	第 21 回	研究テーマの検討 3
第 7 回	文章のいろいろ 2 文学的文章	第 22 回	研究テーマの検討 4
第 8 回	文章のいろいろ 3 言語文化	第 23 回	研究計画の検討 1
第 9 回	ことばの理解 1 表記	第 24 回	研究計画の検討 2
第 10 回	ことばの理解 2 ことばのきまり	第 25 回	研究計画の検討 3
第 11 回	ことばの理解 3 語と意味	第 26 回	研究計画の検討 4
第 12 回	ことばの力 5 音読の力	第 27 回	研究計画の発表 1
第 13 回	ことばの力 6 コミュニケーションの力	第 28 回	研究計画の発表 2
第 14 回	ことばの力 7 情報活用の力	第 29 回	研究計画の発表 3
第 15 回	ことばの力 8 論理の力	第 30 回	研究計画の発表 4

到達目標

小学校国語科教育に関わる内容の中から、卒業論文に向けてテーマを見つけ、研究計画を立てる。

履修上の注意

発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。また、順番に発表を行うので欠席しないこと。

予習・復習

あらかじめ授業に関係するテキストの内容や教材を読んでおく。また、自分の考えを整理して書き残しておく。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

- ・教科書名：言語活動中心 国語概説 改訂版：小学校教師を目指す人のために
- ・著者名：岩崎淳ほか
- ・出版社名：学文社
- ・出版年：2022年(9784762031274)

授業概要

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育・教育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開していく予定です。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	レポート①～作成	第 17 回	レポート③～作成
第 3 回	レポート①～発表	第 18 回	レポート③～発表
第 4 回	レポート①～発表	第 19 回	レポート③～発表
第 5 回	レポート②～作成	第 20 回	卒業論文の進め方
第 6 回	レポート②～発表	第 21 回	卒業論文の研究テーマ
第 7 回	レポート②～発表	第 22 回	文献の探し方①
第 8 回	保育・教育実践研究①	第 23 回	文献の探し方②
第 9 回	保育・教育実践研究②	第 24 回	卒論研究①
第 10 回	保育・教育実践研究③	第 25 回	卒論研究②
第 11 回	保育・教育実践研究④	第 26 回	卒論研究③
第 12 回	保育・教育実践研究⑤	第 27 回	卒論研究④
第 13 回	保育・教育実践研究⑥	第 28 回	卒論研究⑤
第 14 回	保育・教育実践研究⑦	第 29 回	研究結果発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
- ・卒業論文のテーマを決めることができる。

履修上の注意

グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。

発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。

- ① 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学—発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。
- ② パソコンを使った授業を行います。

基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習を兼ねて授業時間外で学習してもらいます。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。

また、合宿等実施の際には、費用がかかりますので、準備をしてください。

予習・復習

発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる。

評価方法

発表内容（80%）と意欲的に学ぼうとする態度（20%）を総合的に評価します。

テキスト

特に、指定しない。

授業概要

「子ども」「家族」をめぐるさまざまなトピックを取りあげ、社会学、ジェンダー学の視点からアプローチしていきます。前期は文献講読を基本とします。毎回、仲間とともに文献を読みそれについて議論する、その積み重ねのなかで、自らの問題意識を鍛え、研究関心のありか探っていきます。後期は前期の作業をふまえ、自らの卒論テーマを決定し、研究計画書を作成します。4年次からの卒論作成に向けて、論文執筆に必要な研究態度やルールを学び、しっかりと身につけることも大切な目標となります。

例年、取り組まれる卒論テーマは多様です。現在の4年生が取り組んでいる卒論テーマは以下の通り。
 「多様化が進む社会の結婚について考える」「自閉症スペクトラム児と家族への支援」「子どもとジェンダー」
 「セクシュアルマイノリティと性の多様性」「子どもたちの居場所はどこにあるのか」「小学校の不登校問題について考える」「いじめをなくすために」「手話というコミュニケーション手段」

授業計画

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方	第16回	研究の進め方
第2回	論文を執筆するための心得	第17回	問題関心のありか
第3回	研究を進めるための心得	第18回	研究課題の検討
第4回	記事検索と資料の調べ方	第19回	先行研究の調べ方
第5回	文献の読み解き方と報告のやり方	第20回	先行調査の調べ方
第6回	文献講読と議論1	第21回	参考文献リストの作成
第7回	文献講読と議論2	第22回	研究方法の検討
第8回	文献講読と議論3	第23回	分析方法の検討
第9回	文献講読と議論4	第24回	研究計画の報告1
第10回	文献講読と議論5	第25回	研究計画の報告2
第11回	文献講読と議論6	第26回	研究計画の報告3
第12回	グループディスカッション	第27回	研究計画の報告4
第13回	関心あるテーマへのアプローチ1	第28回	研究計画の報告5
第14回	関心あるテーマへのアプローチ2	第29回	全体討論
第15回	後期に向けて	第30回	4年次の卒論演習に向けて

到達目標

文献を読み解く力を身につける。
 研究をすすめていくために必要な知識や態度、マナーやルールを身につける。
 仲間と議論し、自らの考えを鍛えるとともに、問題意識を鮮明にする。
 議論をとおして相手の考えを理解する。
 自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

履修上の注意

文献を読み解き、資料を調べ、自らの「問い」を立てる、という作業に真剣に取り組む態度が求められる。
 グループワークなどに積極的に取り組む態度が求められる。
 仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えることができるコミュニケーション能力が求められる。
 子どもにかかわるイベントへの参加など、学外活動を行う場合もある。

評価方法

出席は当然重要である。そのうえで、ゼミでの報告態度と報告内容（40%）、議論への参加態度（30%）、課題レポート（30%）で、総合的に判断する。

テキスト

前期にとりあげる文献については、ゼミ生と相談のうえ、初回のゼミで決める。

授業概要

子ども理解や家庭の問題・支援に関する様々なテーマの中からゼミ生が関心のある内容を取り上げ、文献講読およびディスカッションを通して、各自が取り組んでいきたいテーマを探索する。問題意識を持ってテーマに取り組み、研究に向き合う姿勢を身につけることを目指す。また、卒業論文作成に必要な知識や技能の獲得を目的とする。春期は、心理学の研究の特徴や方法・分析を学ぶとともに、グループもしくは単独で、関心のあるテーマについて文献研究を行い、心理学的視点での事象のとらえ方を理解する。秋期は、各自の研究テーマを探索し、卒業論文のための文献研究や予備調査に取り組み、卒業論文の研究計画立案につなげていく。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	心理学の研究の特徴とテーマ①	第 17 回	研究テーマと研究方法の検討①
第 3 回	心理学の研究の特徴とテーマ②	第 18 回	研究テーマと研究方法の検討②
第 4 回	文献講読と討論：研究テーマ探索①	第 19 回	研究テーマと研究方法の検討③
第 5 回	文献講読と討論：研究テーマ探索②	第 20 回	文献研究／予備調査①
第 6 回	文献講読と討論：研究テーマ探索③	第 21 回	文献研究／予備調査②
第 7 回	文献講読と討論：研究テーマ探索④	第 22 回	文献研究／予備調査③
第 8 回	文献講読と討論：研究テーマ探索⑤	第 23 回	卒業論文の研究計画作成①
第 9 回	心理学の研究手法と分析：質問紙調査	第 24 回	卒業論文の研究計画作成②
第 10 回	心理学の研究手法と分析：面接調査	第 25 回	卒業論文の研究計画作成③
第 11 回	心理学の研究手法と分析：観察法	第 26 回	卒業論文の研究計画作成④
第 12 回	文献研究：発表と討論①	第 27 回	卒業論文の構想発表①
第 13 回	文献研究：発表と討論②	第 28 回	卒業論文の構想発表②
第 14 回	文献研究：発表と討論③	第 29 回	卒業論文の構想発表③
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・子どもと子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、心理学的視点でとらえることができる。
- ・他者の意見を尊重すること、自分の考えを述べることができ、積極的に討論することができる。
- ・自分の関心・問題意識を追及して、卒業論文のテーマを決めることができる。

履修上の注意

- ・グループワークやディスカッションを行うため、他者を尊重して協力するよう努めること。
- ・主体的な取り組みが求められ、かつ、グループワークも多いため、遅刻・欠席はしないこと。やむを得ない場合は必ず連絡を入れること。
- ・学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

予習・復習

資料の収集、調査、レポート作成、発表準備などのため、授業時間外での学習が必要である。

評価方法

授業・討論への取り組み（30%）、レポートなどの提出物（40%）、研究発表（30%）によって総合的に評価する。

テキスト

適宜、資料を配布する。

授業概要

教育の現場では、植物園や動物園、科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際、教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく、十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は、こうした観点から、県内および近隣の社会教育施設等を取り上げ、理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して、将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

後半は、理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から、学会誌や専門書の輪読、科学実験を行う。これらを通して、さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い、卒業論文の土台づくりとしたい。

授業計画

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	環境と人間	第17回	理科教育・環境教育論文とは、発表の順番等の決定
第3回	理科教育・環境教育とは	第18回	発表の技法、資料の作り方
第4回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第19回 ～第29回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議、卒論にむけて
第5回～ 第6回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動	第30回	後半まとめ
第7回～ 第8回	社会教育施設の見学のための準備、計画		
第9回～ 第10回	社会教育施設の見学、資料収集 ※学外活動		
第11回～ 第12回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第13回～ 第14回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第15回	前半まとめ		

到達目標

- ・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
- ・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
- ・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

履修上の注意

本演習は、4年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を理科教育や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

予習・復習

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

評価方法

授業中の態度や参加状況（30%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（40%）、個人レポートなどの提出物（30%）によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションを欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

テキスト

適宜印刷資料を配付する。

授業概要

音楽分野における現象や諸問題、作品等を取り上げ、ディスカッションと実践とを行う中で、そこにある課題点を見出すと共に、自らの研究テーマについて探索していきます。

具体的には、春期では、文献購読を通して音楽的観点からのアプローチ方法について学びます。また、音楽実践を行うことで知識、理論への理解を深めます。秋期では、卒業論文の作成に向けて、各自の研究テーマと研究計画の構想を検討していきます。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	音楽の文献購読の方法①	第 17 回	研究の進め方
第 3 回	音楽の文献購読の方法②	第 18 回	研究テーマの探索①
第 4 回	文献講読実践①	第 19 回	研究テーマの探索②
第 5 回	文献講読実践②	第 20 回	研究テーマの探索③
第 6 回	文献講読実践③	第 21 回	研究方法の検討①
第 7 回	文献講読実践④	第 22 回	研究方法の検討②
第 8 回	文献講読実践⑤	第 23 回	中間発表
第 9 回	音楽ワークショップ①	第 24 回	研究テーマの検討・修正
第 10 回	音楽ワークショップ②	第 25 回	卒業論文の研究計画作成①
第 11 回	音楽ワークショップ③	第 26 回	卒業論文の研究計画作成②
第 12 回	音楽ワークショップ④	第 27 回	卒業論文の研究計画作成③
第 13 回	音楽ワークショップ⑤	第 28 回	卒業論文の研究計画の発表①
第 14 回	研究テーマの構想へ向けて	第 29 回	卒業論文の研究計画の発表②
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	全体の振り返り、まとめ

到達目標

- 文献購読を通して、音楽や教育に関する諸問題への理解を深めることができる。
- 音楽ワークショップを通して、体感したり、自らの表現として発信することができる。
- 卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、計画を構想することができる。

履修上の注意

- 音楽分野の諸問題、教育、演奏に興味関心がある方を前提とします。
- 卒業研究にあたっては、演奏も可としますが、演奏作品に対する研究論文の作成も行います。
- 音楽ワークショップ、課題へは主体的に取り組むこと。
- 遅刻、欠席をしないこと。
- 外部施設への見学、演奏に行く場合もある。

予習・復習

- 練習、発表、各課題への準備と復習を行い、確実なものとする。

評価方法

• 授業への参加姿勢や態度（30%）、レポートなどの提出物（30%）、研究発表と発表内容（40%）によって総合的に判断する。

テキスト

- 受講生の興味関心を確認したうえで、授業内で指示します。

授業概要

「子どもの貧困」「ひとり親家庭」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、子どもや若い世代におきている社会福祉にかかわる問題や、児童養護施設・障害者施設での生活や利用児・者へのケア・対応に着目し、どうかかわっていいか、解決に向けての取り組みや支援について考え、興味関心と問題意識を高めていく。

春期は上記問題や子育て支援にかかわる問題・テーマを各自で選び、文献購読・意見交換、発表を行う。秋期では卒業論文の執筆にむけて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料を収集する、先行研究に目を通す、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学んでいくこととする。また、児童養護施設、障害者施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したい。

キーワード：子どもの貧困、児童養護施設・障害者施設でのケア・支援、子ども食堂、地域子育て支援

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	文献購読・意見交換	第 17 回	研究テーマについて
第 3 回	文献購読・意見交換	第 18 回	文献・資料収集
第 4 回	文献購読・意見交換	第 19 回	文献・資料収集
第 5 回	文献購読・意見交換	第 20 回	研究方法について①アンケート
第 6 回	文献購読・意見交換	第 21 回	研究方法について②インタビュー
第 7 回	文献購読・意見交換	第 22 回	研究方法について③観察
第 8 回	文献購読・意見交換	第 23 回	先行研究をまとめる
第 9 回	文献購読・意見交換	第 24 回	先行研究をまとめる
第 10 回	文献購読・意見交換	第 25 回	研究計画を作成する
第 11 回	文献購読・意見交換	第 26 回	研究計画を作成する
第 12 回	興味のあるテーマについて発表	第 27 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 13 回	興味のあるテーマについて発表	第 28 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 14 回	興味のあるテーマについて発表	第 29 回	施設あるいは支援現場見学まとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

- ・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく。
- ・卒業論文作成にむけて、その過程を理解し、研究計画を作成する。
- ・研究方法について理解する。

履修上の注意

- ・子どもや若い世代に起きている問題やそれらに対する支援について、興味・関心を持っていること
- ・卒業論文については上記の内容や社会福祉領域でテーマを選び、取り組んでもらうことになるので、心積りをしておくこと
- ・意見交換や発表には、積極的に取り組むこと

予習・復習

演習内で、適宜指示をする

評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえて評価する。

テキスト

各自の興味・関心を集約したうえで、適宜指示する。

授業概要

卒業論文の前段階として、専門演習では幼児教育分野におけるテーマを自由に選択し、共通性の高いテーマを選択した複数人で実際に協同して行う。1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回 ～ 第19回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第2回 ～ 第3回	興味がある分野やテーマの確認(現状で把握している情報に対する考察)	第20回 ～ 第21回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第4回 ～ 第5回	文献の検索方法および読み方	第22回 ～ 第24回	研究報告書の作成とプレゼンテーション
第6回 ～ 第7回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第25回 ～ 第27回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第8回 ～ 第9回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第28回 ～ 第29回	研究計画の発表
第10回 ～ 第14回	定量的調査の講義と演習：アンケートをしてみよう！	第30回	秋期まとめ
第15回	春期まとめ		

到達目標

幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案する。

履修上の注意

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どのような内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

予習・復習

事業時間外で取り組む課題を課すことがある。

評価方法

春期における文献レビュー等の諸課題、秋期における研究計画の立案を各50%で評価する。

テキスト

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

授業概要

本演習は、人文社会/教育に関する卒業論文執筆に向けて研究の作法について学ぶことを目的とする。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、自分だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、それを育てる作法、調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し深めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法について体験していく。最終的には卒業論文という独特な世界をつくることになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわる他の人々との協同作業である。

授業計画

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	調査内容についての報告と共有①
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容についての報告と共有②
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究計画書の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究計画書の修正②対象と方法の調整
第 5 回	文献報告①フィールドワーク（教材開発）1	第 20 回	研究計画書の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献報告②フィールドワーク（教材開発）2	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画書の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献報告③参与観察（授業研究）1	第 23 回	問いと先行研究の検討①
第 9 回	文献報告④参与観察（授業研究）2	第 24 回	問いと先行研究の検討②
第 10 回	研究計画書の作成②先行研究の調査法	第 25 回	問いと先行研究の検討③
第 11 回	文献報告⑤生活史（教師研究／歴史研究）1	第 26 回	口頭発表と質疑応答の作法
第 12 回	文献報告⑥生活史（教師研究／歴史研究）2	第 27 回	卒業論文構想の発表①
第 13 回	研究計画書の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文構想の発表②
第 14 回	研究計画の発表と今後の課題の共有①	第 29 回	卒業論文構想の発表③
第 15 回	研究計画の発表と今後の課題の共有②	第 30 回	卒業論文執筆に向けて

到達目標

- ・自ら関心をもった研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
- ・文献購読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- ・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身につける。

履修上の注意

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしていきたいと思います。

なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

予習・復習

基本的には、文献報告や研究計画書に関する調査が予習および復習となります。

授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

評価方法

- ・研究計画書：40%
- ・報告・発表：40%
- ・議論の作法や姿勢：20%

テキスト

詳細は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて検討していきます。

<参考文献>

太田裕子 (2019). 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』 東京図書.
 岸政彦・石岡文昇・丸山里美 (2016). 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』 有斐閣ストゥディア.
 佐藤郁哉 (2002). 『フィールドワークの技法——問いを育てる, 仮説をきたえる』 新曜社.
 佐藤郁哉 (2008). 『質的データ分析法——原理・方法・実践』 新曜社.
 ウヴェ・フリック (2011). 『新版 質的研究入門——〈人間の科学〉のための方法論』 春秋社.
 関口靖広 (2013). 『教育研究のための質的研究法講座』 北大路書房.
 やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他 (2013). 『質的心理学ハンドブック』 新曜社.

授業概要

子どもの特徴に合わせた柔軟な支援や発達援助の知識・技能を身に付けるため、子どもの発達や配慮が必要な子どもなどを中心としつつ各自の考えていきたいテーマを検討する。専門演習では、保育の専門分野を復習しつつ、興味のあるテーマを探っていく。また、卒業論文作成に必要な技能（情報収集の方法、データの獲得方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など）の獲得を目指す。過去の卒業論文では、次のようなテーマがあった。

【テーマの例】

- ・発達障害児・者との接触経験の有無が発達障害のイメージにどのように関連しているか
- ・障害児・者及びその家族に対する認識に関する研究
- ・子どものヒヤリハット場面における大学生の重大さの認識と対策について
- ・大学生における保育者効力感が子どものやる気を促す関わり方に及ぼす影響
- ・自己主張・自己抑制と幼児期の癩癩の関係

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	春期の振り返り
第 2 回	研究の進め方	第 17 回	研究法の理解（質問紙など）①
第 3 回	子どもの心理発達の理解①	第 18 回	研究法の理解（文献調査など）②
第 4 回	子どもの心理発達の理解②	第 19 回	研究法の理解（その他）③
第 5 回	障害等がある子ども①	第 20 回	研究テーマの検討①
第 6 回	障害等がある子ども②	第 21 回	研究テーマの検討②
第 7 回	配慮が必要な他の子ども①	第 22 回	文献収集と情報整理①
第 8 回	配慮が必要な他の子ども②	第 23 回	文献収集と情報整理②
第 9 回	学習した内容のまとめ①	第 24 回	文献収集と情報整理③
第 10 回	学習した内容のまとめ②	第 25 回	研究方法の検討①
第 11 回	テーマ探し、文献収集①	第 26 回	研究方法の検討②
第 12 回	テーマ探し、文献収集②	第 27 回	研究方法の検討③
第 13 回	ディスカッション①	第 28 回	卒業研究の構想発表①
第 14 回	ディスカッション②	第 29 回	卒業研究の構想発表②
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

- ・配慮が必要な子どもの特性を踏まえた保育を考えられる。
- ・人の学習や行動について科学的な視点で考えられる。

履修上の注意

- ・保育の専門分野の学習に意欲をもって取り組むこと。
- ・協働学習やディスカッションなどを行うため、他者との関係を良好にするよう努めること。人任せにせず役割を果たすこと。
- ・資料作成にはパソコンを使用する。オフィス系ソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）、インターネット検索などのスキルを身に付けるよう努めること。
- ・資料作成の際、不正行為は絶対にしないこと。

予習・復習

調査や発表準備・練習のために授業時間外で自主学習が必要である。

評価方法

授業中の態度（20%）、研究発表への取り組み（40%）、レポートなどの提出物（40%）によって判断する。不正を行った場合、不可になる可能性がある。

テキスト

適宜資料を配布する。

授業概要

この演習は「卒業研究」の前段階として、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指す。また保育・教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための環境や指導の研究を行う。豊かな表現を促すための配慮・援助や材料・用具等の取り扱いについて、製作体験を通して学習していく。

授業計画

第 1 回	材料経験の内容と方法 ①平面表現(素描, 水彩, 絵本づくり)	第 16 回	創造力を高める手作り遊具 ・仕掛けのあるおもちゃ(木のおもちゃ, 玩具, 音階のある楽器作りなど) ・大型遊具のデザイン
第 2 回		第 17 回	
第 3 回		第 18 回	
第 4 回	②立体表現(紙工作, 粘土型取り運動会メダルなど)	第 19 回	マルチメディアを用いた映像表現 (クレイアニメ, ライトファンタジー)
第 5 回		第 20 回	
第 6 回	学外活動—美術館訪問と鑑賞教育—	第 21 回	ICT 教材の活用について
第 7 回	材料体験の内容と方法	第 22 回	
第 8 回	③伝承の遊び(飛び出す仕掛け絵本, 折り紙, お便りカード)	第 23 回	海外の子どもの造形表現(欧州南米)と鑑賞教育(アールブリュット他)
第 9 回		第 24 回	
第 10 回		第 25 回	
第 11 回	幼・保・小学校の連携と総合的な活動 (紙芝居, パネルシアター, ペープサート, 影絵, 障がい者のアート, 砂遊びなど)	第 26 回	学外活動: 親子を対象とした造形ワークショップ(造形遊びの発展)
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	乳幼児から小学校児童画の見方—発達段階による様々な表現—	第 28 回	研究課題: 模擬保育・指導計画の設定 →製作活動の導入→展開→まとめ, 評価と反省会
第 14 回		第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

※学芸員による幼児・児童の鑑賞教育を聴講。埼玉県内公共施設にて、親子対象のワークショップ 学外活動を計画中。

到達目標

- ・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高める。
- ・教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や、基礎となる技能を習得する。
- ・研究テーマを設定して、継続的(次年度4年次)に研究計画を遂行する能力を養う。

履修上の注意

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりも、むしろ時間をかけた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士の対話的で深い学びを目指す。

予習・復習

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップの企画参加を検討中。ファシリテーター(促進者)として、子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

評価方法

課題に取り組む態度、製作した作品の質と量(50%)、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動:一部任意(30%)、製作レポートの内容(20%)により評価する。

テキスト

『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤実・森本昭宏編著, 創成社, 2020